



本資料は、米国アッヴィ社が2021年2月3日(米国時間)に発表したプレスリリースを一部、日本語に翻訳し、2021年2月9日(日本時間)、皆さまのご参考として供するものです。本資料の正式言語は英語であり、その内容および解釈については英語が優先します。本資料(英文)については、www.abbvie.comをご覧ください。なお本文中には日本未承認薬、未承認適応症に関する情報が含まれています。

PRESS RELEASE

2021年2月9日

アッヴィ、2020年第4四半期および通年の業績を発表

- 2020年度の希薄化後1株当たり利益(EPS)はGAAPベースで、2.72ドルでした。調整後希薄化後EPSは、10.56ドルでした。
- 2020年度の売上高は、報告ベースで37.7%増のGAAPベースで458億400万ドルでした。調整後の売上高は、457億8,400万ドルでした。
- イミュノロジー(免疫)領域の2020年度の売上高は、報告ベースで13.2%増、営業ベースで13.4%増の221億5,300万ドルでした。ヒュミラ®の米国での売上高は、8.4%増の161億1,200万ドルで、米国外ではバイオシミラーの影響により、報告ベースで13.6%減、営業ベースで12.5%減の37億2,000万ドルでした。スキリージ®の売上高は、15億9,000万ドルでした。リンヴォック®の売上高は、7億3,100万ドルでした。
- 血液腫瘍領域の2020年度の売上高は、報告ベースで21.7%増の66億5,100万ドルでした。イムブルビカ®(日本ではヤンセンファーマ株式会社が承認、発売)の売上高は13.7%増の53億1,400万ドルで、その内訳は、米国内が43億500万ドル、米国外が10億900万ドルでした。ベネクレクスタ®の売上高は、13億3,700万ドルでした。
- エステティクス領域の2020年度の売上高は、25億9,000万ドルでした。ポトックス・コスメティックの売上高は、11億1,200万ドルでした。
- 神経疾患領域の2020年度の売上高は、34億9,600万ドルでした。ポトックス・セラピューティックの売上高は、13億8,700万ドルでした。Vraylar(日本では未承認・未発売)の売上高は、9億5,100万ドルでした。
- 第4四半期のGAAPベースの希薄化後EPSは0.01ドルで、これには、将来の売上高増加予測に基づき再評価したスキリージ®の条件付対価の非現金費用が含まれます。調整後希薄化後EPSは2.92ドルでした。
- 第4四半期の売上高は、GAAPベースで59.2%増の138億5,800万ドルでした。
- 2021年におけるGAAPベースの希薄化後EPSの見通しは、6.69ドル~6.89ドルです。2021年における調整後希薄化後EPSの見通しは、12.32ドル~12.52ドルです。



米国イリノイ州ノースシカゴ、2021年2月3日—アッヴィ(NYSE:ABBV)は、2020年第4四半期および通年(2020年12月31日終了)の業績を発表しました。

アッヴィの会長兼CEOのリチャード・A・ゴンザレスは、次のように述べています。「アラガン統合が完了し、パンデミックで困難な状況下にありましたが、2020年度も引き続き好業績を収めることができました。多様で幅広い成長製品ポートフォリオを有し、ビジネスが好調であることから、2021年度も目覚ましい成長を期待しています」

第4四半期の業績

- 売上高は、報告ベースで59.2%増、比較可能な営業ベースで6.8%増の138億5,800万ドルでした。
- イムノロジー(免疫)領域の売上高は、報告ベースで15.3%増、営業ベースで14.8%増の59億5,800万ドルでした。
 - ヒュミラ®の売上高は、報告ベースで4.8%増、営業ベースで4.4%増の51億5,200万ドルでした。米国での売上高は、8.2%増の42億9,300万ドルで、米国外ではバイオシミラーの影響により、報告ベースで9.4%減、営業ベースで11.4%減の8億5,900万ドルでした。
 - スキリージ®の売上高は、5億2,500万ドルでした。
 - リンヴォック®の売上高は、2億8,100万ドルでした。
- 血液腫瘍領域の売上高は、報告ベースで15.7%増、営業ベースで15.5%増の17億8,900万ドルでした。
 - イムブルビカ®の売上高は9.8%増の14億2,400万ドルで、その内訳は、米国内が11億6,500万ドル、米国外が2億5,900万ドルでした。
 - ベネクレクスタ®の売上高は、報告ベースで46.2%増、営業ベースで45.0%増の3億6,500万ドルでした。
- エステティクス領域の売上高は、比較可能な営業ベースで0.7%減の11億4,200万ドルでした。
 - ボトックス・コスメティックの売上高は、比較可能な営業ベースで9.1%増の、4億9,300万ドルでした。
- 神経疾患領域の売上高は、報告ベースで100.0%以上増加し、比較可能な営業ベースでは14.9%増の13億8,900万ドルでした。
 - ボトックス・セラピューティック(日本ではグラクソ・スミスクライン株式会社が販売)の売上高は、比較可能な営業ベースで1.0%減の5億6,700万ドルでした。
 - Vraylar(日本で未承認・未発売)の売上高は、比較可能な営業ベースで38.0%増の4億100万ドルでした。
 - Ubrelyv(日本で未承認・未発売)の売上高は、6,500万ドルでした。
- GAAPベースで、売上総利益率は66.2%でした。調整後売上総利益率は81.8%でした。



- GAAP ベースで、売上高に占める販売費および一般管理費の割合は、23.3%でした。調整後の売上高に占める販売費および一般管理費の割合は 22.3%でした。
- GAAP ベースで、売上高に占める研究開発費の割合は、13.6%でした。調整後の研究開発費の売上高に占める割合は、パイプラインへの投資を反映し、12.6%でした。
- GAAP ベースで、営業利益率は 27.1%でした。調整後営業利益率は 46.9%でした。
- GAAP ベースで、純支払利息は 6 億 1,800 万ドルでした。
- GAAP ベースで、税率は、102.5%でした。調整後の税率は、11.6%でした。
- 希薄化後 EPS は、GAAP ベースで 0.01 ドルでした。特定項目を除く調整後希薄化後 EPS は、2.92 ドルでした。
- スキリージ®は、マーケットシェア拡大、良好な臨床試験結果、低金利による、将来の売上高の増加が予測されることから、スキリージ®の条件付対価に 47 億ドルを負債計上しました。

注意：「比較可能な営業ベース(Operational)」の対比は、アラガンの当四半期と前年同期の比較が含まれます。アラガンの統合手続きの完了は 2020 年 5 月 8 日ですが、2019 年 1 月 1 日に統合したものと、恒常為替レートで提示し、前年の為替レートにより現地通貨売上高の比較を実施しています。詳細については、主要製品売上高の表をご参照ください。「営業ベース(Operational)」の対比は、恒常為替レートで提示し、前年の為替レートにより現地通貨売上高の比較を実施しています。

詳細な情報はこちらをご覧ください(英文オリジナル)。

https://news.abbvie.com/news/press-releases/abbvie-reports-full-year-and-fourth-quarter-2020-financial-results.htm?_ga=2.82279702.1298575910.1612318392-1507491393.1605149865

アッヴィについて

アッヴィのミッションは現在の深刻な健康課題を解決する革新的な医薬品の創製と提供、そして未来に向けて医療上の困難な課題に挑むことです。患者さん一人ひとりの人生を豊かなものにするため次の主要領域に取り組んでいます。免疫疾患、がん、神経疾患、アイケア、ウイルス、ウイメンズヘルス、消化器疾患、さらにアラガンエステティクスポートフォリオの製品・サービスです。アッヴィの詳細については、www.abbvie.com をご覧ください。Twitter アカウント [@abbvie](https://twitter.com/abbvie)、[Facebook](https://www.facebook.com/abbvie)、[LinkedIn](https://www.linkedin.com/company/abbvie) や [Instagram](https://www.instagram.com/abbvie) でも情報を公開しています。

Forward-Looking Statements

Some statements in this news release are, or may be considered, forward-looking statements for purposes of the Private Securities Litigation Reform Act of 1995. The words "believe," "expect," "anticipate," "project" and similar expressions, among others, generally



identify forward-looking statements. AbbVie cautions that these forward-looking statements are subject to risks and uncertainties that may cause actual results to differ materially from those indicated in the forward-looking statements. Such risks and uncertainties include, but are not limited to, the failure to realize the expected benefits of AbbVie's acquisition of Allergan or to promptly and effectively integrate Allergan's business, challenges to intellectual property, competition from other products, difficulties inherent in the research and development process, adverse litigation or government action, and changes to laws and regulations applicable to our industry. Additional information about the economic, competitive, governmental, technological and other factors that may affect AbbVie's operations is set forth in Item 1A, "Risk Factors," of AbbVie's 2019 Annual Report on Form 10-K, which has been filed with the Securities and Exchange Commission, as updated by its Quarterly Reports on Form 10-Q and in other documents that AbbVie subsequently files with the Securities and Exchange Commission that update, supplement or supersede such information. AbbVie undertakes no obligation to release publicly any revisions to forward-looking statements as a result of subsequent events or developments, except as required by law.